

平成28年度第3回岡山県和牛改良委員会 議事概要

- 1 日 時 平成29年2月14日（火）13時～14時
- 2 場 所 全国農業協同組合連合会岡山県本部総合家畜市場（真庭市草加部）
- 3 出席者 委員：10名 事務局：3名 傍聴：2名
- 4 諮問事項

（1）直接検定終了牛の措置について

直接検定が終了した、「糸花新英」については、発育面にやや難があるものの、体型（特に均称面）に優れ、血統面でも岡山系の濃い牛である。

しかし、同時期に生産された第11回全国和牛能力共進会宮城大会第1区の候補牛2頭が出品に向け、現在、委託農家で調教を行っているところである。

このため、「糸花新英」の調整交配については、候補牛2頭の全共での成績等を勘案して実施することとし、取り扱いとしては「保留」とする。

また、「糸花新英」については、全共補欠牛とする。

（2）後代検定終了牛の措置について

「新高水」 18頭中12頭の検定が終了

枝肉重量：484.6kg ロース芯面積：62.4cm² 脂肪交雑：7.1

これまでに検定の終了した12頭の平均については、肉量・肉質ともに良好な成績である。残る6頭の成績を見て判断することとし、現時点で「保留」とする。

「美咲秋藤」 13頭中11頭の検定が終了

枝肉重量：468.8kg ロース芯面積：56.0cm² 脂肪交雑：6.5

本牛については、肉量・肉質の改良を目的に、宮城県の「茂洋」の精液を導入し、岡山系の濃い母牛と交配して作出した経緯があるが、これまでの成績では、肉量・肉質とも芳しくなく、作出目的には達しないと判断されるため、「廃用淘汰」とする。

また、本牛は、家畜改良事業団との協力検定種雄牛であるが、家畜改良事業団においても「非選抜」が決定されている。

（3）和牛ゲノミック評価の実用化について

育種価未判明の雌牛を対象にDNAサンプルを採集して、産肉能力のゲノミック評価を行っていく計画について、事務局から説明された。

検査材料の採取については、登録検査時での実施を希望する意見が多く、平成29年度からの実施に向けて、今後、関係団体と個別に調整することとした。